

茨城県公衆衛生医師のキャリアプラン モデルケース

①若手医師が専門医取得後、すぐに公衆衛生医師になる（30代前半）パターン

＜入職前後のキャリアのイメージ＞

※卒後年数で記載

1年目

2年目

3年目

4年目

5年目

6年目

7年目

8年目

9年目

10年目～

臨床研修期間

臨床医（専門医）として一定の知識・経験を習得
（具体的な内容等は自身が希望する専門医・所属先医療機関のプログラムによる）

茨城県
公衆衛生医師

＜入職後の具体的なキャリアのイメージ＞

※入職後年数（卒後年数）で記載

1～5年目
（卒後10～14年目）

6～10年目
（卒後15～19年目）

11～15年目
（卒後20～24年目）

16年目～
（卒後25年目～）

行政
（公務）

主任・係長級として
特定の事業を担当

課長補佐級・課長級（保健
所技佐）として、事業推進
とマネジメントを両立

課長級（保健所長）として保健所の組織全体・
管轄医療圏をマネジメント

部長級（保健医療部長）として県全体
の保健医療行政をマネジメント

臨床
（公務外）

入職前に取得した専門医の更新⇒兼業等により、勤務時間外に臨床経験を積む

研究・研修
（公務）

職層に応じ、県職員全体を対象とする一般研修等に参加
（主任研修・係長研修・課長級研修等）

国立保健医療科学院（専門課程Ⅰ）への派遣

社会医学系専門医
（専攻医）の取得

社会医学系専門医
（指導医）の取得

社会医学系専門医の指導医として後進育成

県委託事業により
大学研究室のゼミ受講

大学院・研究
（公務外）

大学院進学（学位取得）

所属学会等の研修等に随時参加

茨城県公衆衛生医師のキャリアプラン モデルケース

②臨床医としても中堅層に位置する医師が、公衆衛生医師になる（40代前半～）パターン

＜入職前後のキャリアのイメージ＞

※卒後年数で記載

1～15年目

16年目～

臨床医（専門医・指導医）として一定の知識・経験を習得

茨城県公衆衛生医師
（数年以内に保健所長の可能性あり）

＜入職後の具体的なキャリアのイメージ＞

※入職後年数（卒後年数）で記載

1～5年目
（卒後16～20年目）

6年目～
（卒後21年目～）

行政
（公務）

課長補佐級・課長級（保健所技佐）として、事業推進とマネジメントを両立

課長級（保健所長）として保健所の組織全体・管轄医療圏をマネジメント

部長級（保健医療部長）として県全体の保健医療行政をマネジメント

臨床
（公務外）

入職前に取得した専門医の更新⇒兼業等により、勤務時間外に臨床経験を積む

職層に応じ、県職員全体を対象とする一般研修等に参加
（課長級研修等）

国立保健医療科学院
への派遣（最優先）

社会医学系専門医
（専攻医）の取得

社会医学系専門医
（指導医）の取得

社会医学系専門医の指導医として後進育成

県委託事業により
大学研究室のゼミ受講

研究・研修
（公務）

大学院・研究
（公務外）

所属学会等の研修等に随時参加